

辰  
久正

西史學要

卷一

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
歷史科學門		
北アメリカ州史部		
アメリカ合衆國	總記	項
車案	時書	年表
次	冊	冊
分 番號	第	號
253.038		

24657

T 1A1  
24  
W 35

24

米國烏斯多爾原撰  
日本和久正辰譯述

# 西史學要全六冊

東京 六合館藏版

## 西史學要原序

一千八百六十二年始メテ此書ヲ世ニ公ニスル  
ヤ別ニ各國沿革精表ヲ附シ彼此相因リ以テ其  
用ヲ全フセンコトヲ求メタリ然ルニ内國遠近ノ  
學校教科用書ノ廉價ヲ要スルヲ以テ若シ此精  
表ヲ除去シテ其價ヲ減スルコトヲ為サスニバ竟  
ニ此書流布ノ道ヲ塞グノ患ナキ能ハズ因テ今  
編記ノ體裁ヲ一變シ精表ニ代フルニ其略表ト  
數葉ノ年表ヲ以テスルニ至レリ  
此書ハ專ラ簡易ヲ以テ主トス故ニ讀者必ス先

ツ卷首ニ載スル所ノ歴史ノ功用原材及ビ其區分ヲ精査シ然ル後チ詳ニ卷末ノ各國沿革略表ヲ檢シ兼テ其説明及ビ問題ヲ通覽ス可シ既ニ各國歴史ノ大體ニ通曉シ併セテ其盛衰興亡ノ年代ヲ記臆セバ更ニ進テ其細條ニ入ルノ便路ヲ得ルニ至ラン就中希臘羅馬佛國英國及ビ米國ノ年表ノ如キハ其關係最モ重大ナルヲ以テ必ズ編中ノ事蹟ト對照スルヲ要ス  
歴史ヲ讀ミ其大體ニ通曉センコトヲ欲セハ各國沿革表及ヒ年表ニ對照スルヨリ善キハナレ其

單ニ瀏覽スル者ニ比スレハ其難易遲速啻ニ天淵ノミナラス且ツ此表ニ由テ已ニ其要領ヲ銘心スルハ復タ忘却ノ患ナシ其功何物カ能ク之ニ比セン讀者果シテ此方ヲ用キバ各國ノ治亂興廢及ビ人文進否ノ因ル所ヲ究メ其年代ノ異同ヲ辨シ其歴史ノ本末ニ通シ其王朝ノ斷續ヲ明ニシ兼テ古今列國ノ事變大故及ビ賢俊英傑ノ聲望ヲ博セシ年代ヲ詳ニスルヲ得ルニ容易ナル可シ

然リト雖一國ノ形勢沿革ヲ知リ成敗興亡ノ

源因結果ヲ明ニスルノミナラズ併セテ名士俊傑ノ事業ヲ詳悉セント欲セバ更ニ又他ノ方便ニ依ラサルヲ得サルモノアリ何ゾヤ其年代事理ヲ明ニシ以テ史ヲ學ブノ目的ヲ達センニハ必ス夫ノ沿革略表ニ伴隨スルニ史談ヲ以テセサル可カラサルモノ則チ是レナリ  
古今各國ノ治亂興廢ヲ網羅シテ細大遺サハルハ固ヨリ此一小冊子ノ及ブ所ニアラズ是ヲ以テ著者ハ務メテ其意ヲ用ヒ僅ニ一二重要ノ國ヲ擧ケ上古ニ在テハ羅馬希臘近世ニ於テハ英

國佛國及ビ北亞聯邦ノ歴史ヲ取り其他諸國ノ歴史ノ如キハ唯其要領ヲ略記シテ二三ノ史論ヲ加ヘ以テ讀者ヲシテ他日博渉ノ階梯ヲ得セシムルノミ  
此書ヲ著スノ主意タルヤ要スルニ讀者ヲシテ成敗興亡ノ顛末ヲ反省照査セシメ以テ瞭ニ其源因結果ノ相關スル所ヲ知ラシムルノミナラズ愈之ヲ讀テ愈其妙味ノ在ル所ニ悟入セシメント欲スルニ在リ故ニ間亦俊傑名士ノ奇事偉跡ヲ引録セリ

有名諸家ノ編述セル歴史ト雖氏人ノ正邪事ノ  
曲直ヲ記スルニ往々彼此相異ナルモノアルハ  
好テ史ヲ讀ム者ノ能ク知ル所ナリ是レ他ナシ  
一ハ史家ノ偏見私意ヲ挾ムニ因リ一ハ其引用  
セル史材ノ前後矛盾スルヲ以テナリ  
治亂興亡ノ跡諸史載スル所往々曖昧ニ屬シ輒  
ク其真偽ヲ判ス可カラサルモノ亦少シトセス  
是ヲ以テ著者ノ記スル所必ズシモ謬誤ナキヲ  
保ツ能ハズト雖氏自ラ畢生ノ力ヲ盡シテ正確  
誤ナキヲ主トシ人ノ正邪事ノ曲直必ス其信據

ス可キモノヲ取り讀者ヲシテ謬坑ニ陥ルノ患  
ナカラシメント欲ス然レ氏據ル所ノ史材其種  
類ノ多々ナル斯クノ如クナルヲ以テ茲ニ一々  
其正確ヲ證スルハ著者ノ敢テセサル所ナリ  
此書固ヨリ蕞爾タル一小冊子ノミ而シテ發兌  
以來大ニ世ノ稱讚愛顧ヲ辱フシ其改鑄ヲ經ル  
已ニ幾回ナルヲ知ラズ今編記ノ體裁ヲ改メ更  
ニ增訂追補輓近ノ記事ニ及ベリ庶幾クハ仍ホ  
江湖從來ノ恩顧ニ負クナカラントヲ

西史學要

例言

一 近時西史ヲ譯スル者世其類ニ乏シカラスト  
雖氏多クハ學校ノ課程ニ用ヰルヲ主トセサ  
ルガ故ニ其體裁或ハ上古ヲ舉テ近世ヲ措キ  
或ハ近世ヲ詳ニシテ上古ヲ畧シ未ダ繁簡中  
ニ適シ首尾全キヲ得ルモノヲ見ズ間亦古今  
ヲ通譯スルアリト雖氏零丁破碎以テ中學校  
師範學校等ノ如キ高等ノ課程ニ用ヰルニ足  
ラズ缺典ト謂フ可シ余ヤ多年事ニ教育ニ從

フテ親ラ授業ニ實驗シ常ニ其良書ナキヲ憾ム因テ謏陋ヲ省ミス公餘之ヲ譯シ以テ其萬一ヲ補ハントス

一原書ハ米國學士ウースタル氏ノ撰著ニシテ之ヲ「エレメンツ、オフ、ヒストリー」ト題ス乃チ一千八百七十八年ボストン府タムソンズブロウン商會ノ刊行スル所ナリ其發兌以來購フ者極メテ多ク數回ノ改鑄増訂ヲ經テ今ナホ該國各地ノ學校ニ用ヒラレ聲價頗ル高シ而シテ其書專ラ高等ノ課程ニ適切ナラシムル

ヲ主トス故ニ其記スル所上古ヨリ今世ニ至ルマテ詳略宜キヲ得テ體裁亦自ラ尋常ノ歴史ト同シカラス每節必ス記号ヲ附シテ編末ニ符合ノ問題ヲ設ケ生徒ヲシテ其學ブ所ノ要旨ヲ記臆シ試ニ應スルノ便ヲ得セシメ之ニ加フルニ各國沿革略表ト年表トヲ以テス讀者本邦歷代ノ年表及ヒ萬國地圖ヲ把テ之ト對照セバ古今成敗ノ跡一目ノ下ニ瞭然タランノミ

一世ノ古代ノ事跡ヲ記スルモノ其臆測ヲ以テ

荒唐不經ノ説ヲ為シ往々後進ヲ誤ルニ至ル  
其害固ヨリ淺少ニアラサルナリ此書ハ斷ジ  
テ無稽ノ言ヲ去リ大小ノ事ミテ確然證ス可  
キモノニアラサレバ取ラズ

一 此書ハ事ヲ論シ人ヲ評スル中正公平ニシテ  
毫モ教門學派等ニ屬スル偏見私意ヲ挾マズ  
行文ノ間常ニ勸懲ノ意ヲ含メリ

一 西人撰著ノ萬國史ナルモノ其記スルトコロ  
概子歐米諸國及ヒ亞細亞西部ノ事ニ止ル而  
メ題スルニ萬國史ヲ以テス頗ル妥當ナラス

トス此書マタ其類ニ屬スルヲ以テ題シテ西  
史學要ト曰フ庶幾ハクハ其實ヲ得シ

一人名ハ——ヲ用ヒ地名ハ——ヲ標シ原語ハ  
上下ニ〔 〕ヲ加ヘ眼目ノ譯字ハ右旁ニ圈點  
ヲ附シ以テ讀者ニ便ニス其人地名等未ダ  
漢譯ヲ經サルモノハ概シテ國字ヲ用フ

一 原註ハ句頭ニ〔原〕字ヲ記シ譯者ノ解釋ニ出ル  
モノハ〔按〕字ヲ冠シ以テ彼此ノ別ヲ明ニス

明治十五年四月

譯者識



西史學要目録

歷史本論

歷史ノ功用

歷史ノ原材

歷史ノ區分

上古史

埃及史

肥尼西亞史

亞細里亞及ビ巴比倫史

波斯史

希臘史

西里亞史

埃及史

羅馬史

中古史

亞刺比亞史

封建記事

十字軍記事

武臣<sup>雜</sup>記事

近世史

佛國史

英國史

歐洲列國史

米國史

各國沿革略表

年表

聖史

問題

以上全部八冊

西史學要卷一

米國 烏斯多爾原撰  
日本 和久正辰譯述

歷史本論

歷史ノ功用

(一) 歷史ハ往事ノ傳記ナリ老幼ニ論ナク智愚  
ヲ問ハズ之ヲ學ブモノ誰カ其心ヲ娛マシメサ  
ラン獨リ其心ヲ娛マシムルノミナラズ因テ以  
テ其才カヲ練磨シ遂ニ最大有用ノ知識ヲ得ル  
ニ至ルベシ

(二) 今一步ヲ退キ歴史ヲシテ悦目快心ノ具タルニ止マラシムルモ彼ノ小説妄誕ノ人心ヲ惑溺シ徳義ヲ壞紊スルモノニ比スレハ其益タルヤ大ナリ其中或ハ人ヲシテ空想ヲ樂ムノ念ヲ起サシメ耳目ノ感情ヲ喜ハシムルモノ間亦小説ニ均シキアリト雖モ歴史ハ元ト實事ニ據テ之ヲ編記スルモノナルヲ以テ未ダ曾テ世道人心ヲ壞紊スルノ跡アルヲ見ス故ニ其ノ小説ト日ヲ同フシテ語ル可カラサル固ヨリナリ

(三) 歴史ハ能ク好奇ノ心ヲ挑撥スルノ功アリ

蓋シ史ヲ讀テ人世ハ名奔利走一ツトシテ目ヲ喜ハシムルモノナク記スル所ミナ人事ノ慘狀ヲ顯ハスニ過ギザルヲ知ラハ誰カ悲哀ノ情ニ堪ヘサランヤ然リ而シテ世間未ダ曾テ讀史ヲ廢スル者アルヲ聞カス是レ好奇ノ心然ナラシムルナリ

(四) 今一步ヲ進メテ更ニ歴史ノ高尚ナル功用ヲ論セハ歴史ハ吾人ノ理會力ヲ練磨シ判斷力ヲ敏壯ナラシムルノ效驗アリ人呼テ之ヲ例證ノ哲學ト名ク即チ先賢ノ言行ヲ例證シテ示教

セル修身學ナレバナリ且ツ吾人已ニ自ラ經ル  
所ノ實驗ニ前人ノ經歷ヲ參ヘ彼此相因リ以テ  
吾人ヲシテ處世ノ道ヲ知ラシム

(五) 人苟モ史ヲ讀ムハ人性ノ善惡ヲ知リ行  
為ノ曲直ヲ判シ人事必ス原因結果アリテ其關  
係須臾モ相離ル可カラサル所以ヲ推究スルヲ  
得ベシ而シテ狹隘偏私ノ心ヲ去リ古今形勢ノ  
異ナル所ヲ比較シ萬國事蹟ノ同シカラサル所  
ヲ對照シ褒貶ヲ公平ニシ以テ其優劣輕重ヲ明  
ニスルヲ得ルモノ亦タ歴史ノ功ナリトス

(六) 史ヲ讀ム亦タ政學ヲ究ムルノ一端ナリ苟  
モ主治者タリ政事家タル者ハ必ス之ニ從事セ  
サル可カラズ蓋シ各自ノ權利ヲ全フシ品位ヲ  
保チ能ク其本分ヲ盡シテ社會ノ公益ヲ致スラ  
得セシムルノミナラズ吾人ヲシテ社會ノ組織  
ヲ知り國體法律政治ノ相須テ調和ノ宜シキヲ  
得ル所以ヲ悟リ古今各國盛衰興亡ノ由來形情  
ヲ詳ニスルヲ得セシムルモノ歴史ニ依テズン  
バ能ハザルナリ

(七) 歴史ハ往時ノ形勢ヲ明ニシ古ヲ見ル猶ホ

今ヲ見ルカ如ク各國ノ治亂ヲ歴叙シ前人ノ成敗ヲ鑑ミテ自ラ戒ムルノ裨益ヲ與フルノミナラズ希臘羅馬ノ遺智ニ由リ近世文藝理學ノ大ニ開ケ施政布教共ニ其宜シキヲ得テ人事ノ進歩今日アルヲ致セシ所以ヲ了知セシムルノ功アリ

(八) 歴史ハ徳性ヲ養ヒ善心ヲ勵スノ功アリ惡事ヲ見テハ必ズ其厭惡ス可キヲ知リ善行ヲ見テハ必ズ其ノ嘉尚ス可キヲ覺ヘ所謂ル真正ノ榮光ハ一身ノ富勢ヲ求ムルニアラスシテ中正

公平ノ心ヲ以テ其才カヲ勞シ以テ社會共同ノ公益ヲ進達スルニ在ルヲ會得スルニ至ル可シ

(九) 真正ノ歴史ハ能ク造化ノ妙用ヲ明示ス故ニ其交渉スル所極ノテ廣ク其用ヲ為スモノ勝テ數フ可カラズ古來天下ノ安危ニ關スル重大ノ事件ニシテ往々主治者ノ意志ニ反スル成績ノ實例アルヲ見ルハ真正ノ歴史ニアラサルヨリハ安ソ能ク其目的ヲ達ス可ケンヤ

(十) 苟モ史ヲ讀テ其真味ヲ知ルハ人事ノ浮沈定リナク世途ノ變遷常ナキヲ見テ自ラ其分

ニ安ニスルノ意ヲ生ズルニ至ル可シ何トナレ  
バ則チ高位ニ在リ顯要ニ立ツモノ未ダ必スシ  
モ危難ヲ免ル、能ハズ財足り權威ナルモノ未  
タ必スシモ其幸福ヲ全フスル能ハズ威宇内ニ  
振ヒ富天下ヲ歴スルノ主治者ニシテ其末路往  
々見ルニ忍ビサルモノ少ナカラサルヲ知ルニ  
至レバナリ

### 歴史ノ原材料

歴史ノ原材料固ヨリ少カラスト雖此之ヲ要スル  
ニ其正確據ル可キノ記録若クハ當時其事ヲ實

視セル者ノ説話并ニ左ノ數條ヲ以テ重要ナリ  
ト為ス

(一) 口碑 ヘロドチユースハ概子其史材ヲ口  
碑ニ取りタリト云フ蓋シ口碑ハ書画彫刻ノ枝  
術未タ其發明アラサルノ前ニ於テ已ニ行ハレ  
タレバナリ

(二) 史詩 咏史ノ詩ハ多ク野蠻ノ國民中ニ行  
ハルホーメルノ史詩「アイリアード」及ビ「オデッセ  
」ノ如キハ希臘人ノ正確據ル可キモノト為ス  
所ニシテ世ノ所謂ル希臘雄世ノ事ヲ傳フルニ

止マルモノナリ

(三) 明蹟 石柱疊石及ビ岳陵ノ如キ堆起突出シテ顯然見ル可キモノ之ヲ明蹟ト為ス野蠻人民ノ賴テ以テ史上ノ事蹟ヲ傳フルモノナリ

(四) 墟址 埃及バルベツキハルミラニニ、  
グ及ヒペルセポリースノ墟址ノ如キハ往昔其國富强ニシテ起造者ノ雅趣風韻ヲ萬古ニ傳フルノ記念ナリ

(五) 遺稱 往時國土都府等ニ名稱ヲ命セシモノ千秋傳稱シテ當時人民ヲ其地ニ移殖シ若ク

ハ之ヲ創立セシ者ノ事業ヲ不朽ニ垂ル、ヲ得ルモノ古來其例少シトセス

(六) 貨幣及ビ賞牌 歴史年表地誌及ビ神學ノ事蹟本源ヲ明ニシ併セテ古代國民ノ禮儀風俗ヲ知ルニ於テ大ニ益アルモノハ貨幣及ビ賞牌ナリ然レモ是等ノモノ稍開進ノ域ニ達シタル人民ニアラサレバ之ヲ用ヒタルヲナシ其發見ニ係ル古錢ノ如キ大抵地中ニ埋没セルモノ多シ方今歷代ノ古錢ニシテ猶ホ存スルモノ少カラズ其中鑑定ノ最モ確實ニシテ最モ古雅ナル



モノハ紀元前五百年代ニ属スルモノナリ

(七) 碑銘 古代ノ事蹟ヲ證明スルニ著明ノ石  
碑ソノ用ヲ為スモノ少シトセス方今英國オキ  
スホルドノ大學校ニ藏置セル古碑ノ如キ則チ  
是レナリ此碑ハ嘗テアルンドル候ノ希臘ヨリ  
携ヘ歸ル所ニシテ名ケテ「アルンデリヤンマー  
ブルト」云フ

(八) パロース島ノ年表 碑銘中最モ重要ナル  
モノハパロース島ノ年表ナリ此表ノ大成ヲ告  
ケタルハ蓋シ紀元前一千二百六十四年ニ在リ

ト云フ表中載スルトコロセクロブスノ時代即  
チ紀元前一千五百八十二年ヨリ成表ノ年ニ至  
ル近年數名ノ碩儒博士ヲ會シ其眞偽如何ヲ討  
議鑑定セシメタルニ過半ノ會員ハ異口同音ニ  
其眞正疑フ可カラサルヲ證セリ方今世ノ最モ  
信憑ヲ受ケタル希臘ノ年表ハ其材料多ク之ヨ  
リ出ツ

(九) 象形文繪画及ヒ彫刻 埃及及ヒ亞細里亞  
ノ遺蹟ニ於テ今ナホ存スル所ノ象形文繪画及  
ヒ彫刻ノ如キハ近代ノ發見ニ係ルモノニシテ

僅ニ其一部ヲ釋明スルヲ得ベント雖其國古  
代人民ノ沿革禮儀風俗ヲ知ルニ於テ大ニ資ア  
リトス

### 歴史ノ區分

- (一) 歴史ハ年代ヲ以テ之ヲ論スルガ分テ上  
古近世トス
- (二) 上古史ハ天地ノ創成ヨリ紀元後八百年チ  
ヤレマンノ新西帝國ヲ創立スルニ至テ止ミ  
近世史ハ是ヨリ以降今世ニ至ルノ沿革ヲ記ス
- (三) 然レ氏史家或ハ耶蘇紀元又以テ上古近世

ヲ分ツモノアリ或ハ紀元後四百七十六年羅馬  
西帝國滅亡ノ時ヲ以テ之ヲ分ツ者アリ

- (四) 上古近世ノ外歴史ノ第三區分ト為スモノ  
ハ中古ナリ紀元後第五紀ヨリ第十五紀ニ至ル  
即チ羅馬西帝國滅亡ノ時ヨリ其東帝國滅亡ニ  
至ルノ間大約一千餘年ヲ云フ

(五) 中古ハ上古ノ文學絶滅シテヨリ近世ノ文  
學興起スルニ至ルノ年代ナリ其間歐洲擧テ無  
知野蠻ニ属シ渾沌タル一小天地ナリ故ニ後世  
コレヲ暗世ト名ク

西史要略 卷之十一  
六 上古史中載スルトコロ事跡ノ著明ナルモ  
ノ亞細里亞波斯希臘及ヒ羅馬ノ四大國アリ亞  
細里亞ハ一ニ巴比倫ト云ヒ希臘ハ一ニ馬基頓  
ト云フ

(七) 中古回教創メテ起リサラセン帝國始メテ  
立ツ而シテ封建ノ制十字ノ軍及ヒ武臣ノ事ア  
リ其勢共ニ盛ナリ之ヲ當時ノ著跡トス

(八) 近世ニ及テ事ノ記ス可キモノ多シ火藥ノ  
發明アリ戰法隨テ一變ス亞米利加大洲ノ發見  
アリ通商ノ道之ニ由テ大ニ開ケリ活版印行ノ

發明アリ為ニ學術ノ衰態ヲ挽回シ六ニ知識ヲ  
擴充ス之ニ加フルニ教門ノ變革社會百般ノ改  
良進歩アリ就中五十年以來政治上ノ更革變動  
少カラズ苛政ヲ除キテ仁政ノ基ヲ立テ各科ノ  
理學頗ル進歩ノ色ヲ呈シ著書新聞紙ノ發行日  
ニ加ハリ民間通信ノ便大ニ開ケ器械使用ノ術  
大ニ上進シテ蒸氣ヲ用フルニ至リ許多ノ艱恤  
義會ヲ組織シテカヲ布教濟民ノ事ニ盡シ以テ  
世ノ生計ヲ豊ニシ人ノ品位ヲ高フスルニ至レ  
リ

西史圖考 卷之二  
九 歴史ハ其旨意ノ性質ニヨリテ之ヲ類別ス  
レバ聖史俗史教史及ビ政史トス  
十 聖史ハ即チ經典中載スル所ノ歴史ニシテ  
其記スルトコロ概テイスレール族ノ事跡ニ係  
ルイスレール族ハ一ニ猶太人ト名ク俗史ハ上  
古異教ヲ信奉セシ國民ノ沿革ヲ記スルモノニ  
シテ其材料多クハ希臘及ヒ羅馬國民ノ遺書ニ  
出ツ教史ハ西教ノ起源ヨリ現今ニ至ルノ沿革  
ヲ載セ政史ハ古今諸州各國ノ事蹟ヲ擧ケ其戰  
亂政變ノ形狀ヲ明ニスルモノナリ

士 聖史ハ上古ノ元始ニ溯リ天地創成ノ記事  
ヲ以テ筆ヲ起セリ而シテ創世ノ事タル邈焉證  
ス可キナシ希伯來文ノ經典ニ據レバ紀元前四  
千四年ニ在リトシ拉馬利亞文ハ四千七百年ナ  
リト書シ七十士譯ノ舊約全書ハ五千八百七十  
二年ト記シ學士ハイルスノ算測ニヨレバ五千  
八百七十二年ナリトシ諸說紛紜學士ノ論未ダ  
一定セズト雖氏英國ノ文學社會ニ於テハ概テ  
彼ノ希伯來文ニ從テ天地ノ創成ヨリ耶蘇紀元  
ニ至ルマデヲ四千四年トシ洪水ノ時ニ至ルマ

デヲ一千六百五十六年ト為ス

(十三) 近世地質ノ學大ニ開ケ古來未ダ知ル可方  
ラザルノ奇事要件ヲ發覺シ遂ニ世ノ學士輩ヲ  
シテ地球ノ創造ハ其年代ノ遠キ世人ノ信憑セ  
シ所ニ過ギタルヲ悟ラシメタルノミナラス西  
教博士ヲシテモセス遺ス所ノ創世記ヲ解釋セ  
シモノ皆其杜撰ニ出テタルヲ知ラシムルニ至  
レリ

(十四) 上古初メテ俗史ヲ編修セシ者ハヘロドチ  
ユスナリ其書今ニ於テ猶ホ存スルモノ多シ世

人呼テ之ヲ史祖ト為ス而シテ其ノ之ヲ修メシ  
ハ實ニ紀元前四百四十五年ニシテ其七百十三  
年以降四百七十九年ニ至ルマテ埃及波斯希臘  
以阿尼萊陀及ビ馬基德尼亞ノ事跡ニ就キ苟モ  
其見聞ノ及ブ所ハ細大遺サス悉ク之ヲ網羅セ  
リ

(十五) 尋常ノ年表ニ據レバ創世ヨリヘロドチユ  
ース筆ヲ起スノ時ニ至ルマテ幾ンド三千三百  
余年ニシテ其正確ヲ證スルモノハ唯ニ一經典  
アルノミ即チ人類創生ノ時ヨリ今日ニ至ル歴

年ノ大半ヲ占ムルモノトナス而シテ其事跡ヲ  
今日ニ傳フルモノハ當時史家ノ手録ナリ其他  
壤爛收ム可カラサルノ雜記ト沙漠微ス可カラ  
サルノ口碑アルニ過ギズ

(五) 太古ノ事跡人民ノ定住社會ノ原狀人類ノ  
開明ニ關シテ吾人聞識ノ及ブ所固ヨリ狹シ只  
ソノ確然信ヲ措クニ足ルモノハ一經典アルノ  
ミ而シテ其記スルトコロ事跡僅少ニシテ未ダ  
吾人ヲシテ訊究鑿穿ノ意ヲ滿タシムル能ハズ  
ト雖凡其中マタ著明見ル可キモノ無キニシモ

アザルナリ

(六) 俗史起年ノ以前ニ屬シタル著跡ニシテ聖  
經ニ載スル所ノモノハ天地ノ創成人類ノ犯罪  
世界ノ洪水ナリ次テババールノ離散各國ノ開  
創及ビイスレール族ノ埃及ヲ脱シテ加南ニ移  
住スルノ事アリ

(七) 希臘及ヒ羅馬ノ歴史ハ上古ノ俗史中奇異  
至重ノ事最モ多シ是レ世人ノ普ク知ル所ナリ  
(八) 中古ハ所謂ル暗世ニシテ大小ノ事跡概シ  
曖昧ニ屬シ明晰證ス可キモノ絶テ之ヲ見ス

古今歴史ノ中事跡ノ最モ明瞭ニシテ世人ノ普ク知ル所ノモノハ三百年以降近世ノ文明諸國ト稱スル者ノ沿革ト為ス

讀者宜シク後卷ニ載スル所ノ各國沿革表并ニ其説明ヲ參觀シ兼テ聖史ノ略說以色列史猶太史ノ年表ヲ通覽スベシ

### 埃及史

(一) 史上著明ノ地位ヲ占ムルモノハ埃及ナリ蓋シ其國天下ニ最モ舊ク技術ノ進歩マタ最モ早キヲ以テナリ故ニ人呼テ之ヲ萬學發生ノ淵源ト名ク而シテ又ソノ後世ニ誇ルニ足ルモノハ書技ナリ希臘及ヒ伊太利ノ如キ運ナホ草昧

ニ屬スルノ時ニ於テ已ニ技術ヲ修メ理文ヲ講シ遠ク文明ノ華域ニ達セリ後世希臘ノ開明ニ進ミタルモノ其源ヲ是國ニ發ス其ノ漸ク曲折奔放ヲ極ムルノ今日ニ於テ顧テ吾人知識ノ河道ヲ溯盡スレバ其源ナホナイール河畔ノ兩岸ニ在リ

(二) 埃及古代ノ事ハ概テ杳渺ニ屬シ今ニ於テ之ヲ審明スルノ術ナキハ吾人ノ最モ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ上代王朝ノ事跡ノ如キハ邈トシテ知ルニ由ナシ只ソノ史ニ依テ僅ニ之ヲ明ニ

スルヲ得ルモノハ上世壯麗ノ府城ヲ建設シ隆  
大ノ石塔ヲ起造シタルノ事跡アルノミ而シテ  
此大塔ハ遠ク上古ニ於テ是國人民ノ技術ニ長  
シタル明証ヲ示シ千歳ノ下之ヲ追想スル毎ニ  
吾人ヲシテ歎美驚動止マザラシム

(三) 埃及古代ノ建設起造ニシテ華光眼ヲ射テ  
宏壯人ヲ驚スモノ勝テ數フ可カラズ人工ニ成  
ルノ大湖モ一リリスアリ地下ニ構成セル石造  
ノ迷樓アリ其他閣陵アリ屍坑アリ就中ナイル  
河畔ノ尖塔ノ如キ古今宇内ノ奇觀ト稱ス可シ

(四) 上部埃及ノ府城セーブヌハ百門アルヲ以  
テ名アリ往時詩人史家ノ題旨ト為シテ歎美セ  
シ所ナリ而シテ其華榮ヲ極メシハ正史起年ノ  
前ニ在ルヲ以テ其事ヲ傳フルモノ僅ニ詩歌口  
碑ニ過ギス其詳ナル得テ知ル可カラズ然リト  
雖凡是等ノ史料ナホ存シテ當時ノ昌榮ヲ今日  
ニ證スルニアラズンバ人誰カ其事ヲ以テ信ナ  
リトセン

(五) ヘロドチユス臨世ノ前セーブヌノ地ニソ  
シヒス府アリ後チプトレミース統ノ是國ヲ治



ムルニ及テ府城ヲアレキサンドリニアニ移スル  
トラボ及ビデオドリユスセীগブスノ事ヲ叙シ  
其府名ヲテオスホリースト題ス而シテ其石塔  
ノ形状ヲ記スルモノ抑揚度ニ過キ人ヲシテ其  
真偽如何ヲ疑ハシムルニ至レリ近世ニ及テ旅  
客ノ其地ヲ過ル者親ク之ヲ目撃シ其記スル所  
全ク正實ニアラサルヲ確證セリト云フ  
(六) 往時埃及ニ於テハ物形ノ粗画ヲ以テ字母  
ニ代用セリ之ヲ象形文ト名ク今ナホ其古廟尖  
塔石碑ノ遺物ニ就テ之ヲ散見ス可シ

(七) 輓近キヤンペリオン等ノ學士交之ヲ尋究  
搜查シテ稍象形文ノ意義讀法ヲ解説シ以テ埃  
及古代ノ歴史及ヒ其禮儀風俗ヲシテ一層ノ明  
瞭ヲ加ヘシムルニ至レリ  
(八) 埃及ノ人民ハ元ト混合人種ニシテ外貌體  
格彼此大ニ異ル所アリ下等社會ノ人ハ肌膚漆  
黒ニシテ頭髮鬃縮シ上等社會ノ者ハ肌膚白色  
ニシテ容貌優美ナリ之ヲ要スルニ人民ノ過半  
ハ肌膚褐色ニアラザレバ則チ黃色ナリ民位ヲ  
分テ七等トス每等ミナ世襲ニシテ其分界最モ

西史要略 卷之二  
嚴密ナリ而シテ各其固有ノ品位特權アリ僧侶  
兵士ノ二等ヲ最上ノ地位ト為シ農夫商人水手  
工匠コレニアキ牧羊ヲ業ト為ス者ハ最下等ノ  
地位ニ立チ人ノ賤ム所ト為ル

(九) 政體ハ世襲立君ナリ然レモ稍君權ヲ制限  
スルノ定式舊例アリ且ツ僧侶ノ德勢マタ能ク  
之ヲ左右セリト云フ方言ニ國王ヲハロースト  
名ツク即チ兵士ノ等位ニ属ス後世君政ノ衰フ  
ルニ及デ祭師セツス遂ニ王位ヲ僭奪ス

(十) 埃及往代ノ法律ハ簡明ニシテ公義ヲ旨ト

シ身體ヲ犯スノ罪ハ其罰財産ヲ犯スヨリモ嚴  
酷ナリ人ヲ殺ス者ハ死罪ヲ以テ論シ人ノ殺害  
ニ逢フヲ見テ救ハサル者マタ同罪ナリ子女ニ  
シテ父母ヲ殺ス者ハ拷訊シテ生ナカラ火刑ニ  
處シ父母モシ子女ヲ殺セバ僅ニ三日ノ間ソノ  
死體ト共ニ獄ニ繋カルノミ債ヲ負フ者モシ償  
フ能ハザレバ債主ハ其財ヲ奪フノ權アリト雖  
氏負債者ハ獄ニ下ルノ罰ナシ無證ノ債ハ之ヲ  
法衙ニ訴フルモ被告者ソノ無實ヲ陳述シテ之  
ガ要求ニ應スルヲ拒ム片ハ之ヲ奈何トモスル

ナシ

(土) 國王ノ外何人ヲ問ハス身方ニ死スレバ官吏ヲシテ葬儀ヲ行フノ可否ヲ審案セシメ其履歴ヲ查定シ有徳ノ行跡明白ナルハ其尸ニ香料ヲ藏メ數種ノ榮號ヲ記シ費ヲ省ミズ華奢ノ墳墓ヲ築キテ之ヲ埋葬スルヲ許スト雖其生前ノ品行正シカラズ或ハ負債アリテ未タ償還ノ義務ヲ果サ、ル者ハ之ガ埋葬ヲ許サズ蓋シ來世ノ幸福ヲ享ケシメサルノ意ナリ

(土) 埃及ハ古ヨリ常備兵アリ之ヲ組織スルニ

多クハ車戰ニ熟達セル勇士ヲ以テス隊伍ヨク整ヒ兵器大ニ備ハリ其編成マタ宜キヲ得タリ之ヲ徵召スルノ法兵籍ヲ按シテ丁壯ノ籤ニ當ル者ヲ取ルヲ方今歐洲諸國ノ徵兵法ニ異ナラズ兵器ハ弓矢ヲ以テ重要ト為ス故ニ往々射術精練ニシテ巧妙ヲ極メ其勢力當ル可カラサルモノアリ

(土) 埃及國王ノ始祖ニシテ正史記スル所ノ者ヲメニーストスメニース國都ヲ上部埃及ニ開キヂースト名ク子孫相承ケテ位ニ即キ王政ノ

西史要略 卷之十一  
熾ナル數百年ノ久シキヲ經タリ後チ萍踪定居  
ナク牧羊ヲ以テ業ト為スノ一種族ヒクソリス  
ノ侵入スルアリ王政竟ニ之カ為ニ熄ム學士或  
ハヒクソリス族ヲサイニアノ居民ナリト想定  
スルアリト雖氏其是非未タ詳ナラズヒクソリ  
ス族ハ一ニ牧羊列王ト名ク其ノ埃及ノ大半ヲ  
奄有シテ之ニ據ル久シ或ハ之ヲ二百年間ナ  
リトシ或ハ之ヲ九百年間ナリト為シ諸説紛々  
未タ一定セズヒクソリス族後チ遂ニ兵力ヲ以  
テ邦外ニ驅逐セララル是ニ於テ真主再ビ位ニ復

セリ

(十四) 埃及列王ノ中聲名最モ著ハレタル者ハラ  
ミセス大帝ナリ當時希臘ノ國民ハ之ヲセソス  
トリート名ク地ヲ掠シ境ヲ擴メ其勢最モ熾ナ  
リ漸ク亞細亞ノ西部ヲ征服シ施テ歐羅巴ノ境  
ニ及ブ而シテ征伐功成リテ其國ニ歸ルヤ專ラ  
カヲ内國都城ノ修飾増築ニ盡セリ其宏堂壯殿  
今ニ於テ猶ホ存スルモノアリ壁上画クニ戰捷  
ノ圖ヲ以テス

(十五) 聲名ラミセスニアク者ハオシルトセン第

一世ナリ史家或ハ此王ヲ以テヂョセフヲ迎接  
シタル人ナリトス之ニ亞テ其名ノ顯著ナル者  
ハソセミーヌ第四世ナリ其ノ位ニ在ルニ當テ  
遂ニ夫ノヒクソニス族ヲ驅逐ス又コレニ亞ク  
者ハアミノーフ第三世ナリニウビアヲ征畧シ  
テ其地ニメンノンノ石像ヲ建設ス像鏗然聲ア  
ルヲ以テ名アリ

(十六) 埃及ノ歴史中聲名マク之ニ亞ク者ハ子  
チウスナリ一ニハロー子チヨト名ク大ニ航  
海ノ術ヲ奨勵シ盛ニ艦隊ヲ編成シ始メテ阿非

利加ヲ周航スメヂヤ及ビ巴比倫ヲ攻メ進テ猶  
太ニ入りメチツドニ戰テ大ニ猶太王ジヨシヤ  
ヲ破ル

(十七) 紀元前五百二十五年プサンメニチウスノ  
位ニ即クヤ波斯ノ兵境ヲ侵シペルシウムヲ圍  
ム敵將カンビセス之ガ元師タリ當時國人邪教  
ニ迷溺シテ獸類ヲ信仰ス敵兵之ヲ奇貨トシ隊  
伍ノ前面ニ猫犬ヲ列ス埃及ノ兵ソノ或ハ之ヲ  
傷メン一ヲ恐レ遠巡一箭ヲ放タズ敵兵之ニ乘  
シ踴躍シテペルシウムニ入ル一人ノ敢テ抗ス

ル者ナシ後チ幾クモナクカンビセスマタメン  
ヒスヲ掠シ遂ニ埃及ヲ波斯ノ藩屬ト為ス

(六) アレキサンドル大帝一舉ニシテ波斯ノ所  
轄ヲ奪ヒ遂ニ自ラ之ヲ治ムアレキサンドル殂  
スルノ後チプロトレミーノ所轄ニ属ス子孫累世  
相繼テ姓氏ミナ同シ其間埃及再ビ往時ノ光華  
ヲ復シ理學商業ノ進歩共ニ宇内ニ冠絶セリ

肥尼西亞史

(一) 肥尼西亞ハ上古開明諸國ノ中ニ就テ聲名

最モ著ハレ進度遙ニ上流ニ位セリ然レ其  
事跡ヲ記スルモノ概チ完キヲ得スシテ零雜秩序  
ナシ僅ニ聖經及ビ希臘史家ノ記スル所ニ就テ  
之ヲ散見スルノミ或人ノ説ニ肥尼西亞ノ史家  
サンコニエーゾンハジヨシウアノ時ニ當テ頗  
ル聲名アリト然レ其書存スルモノ僅々數部  
ニ過ぎズ且ツ真偽ナホ未タ判然ナラズ

(二) 肥尼西亞ノ國民ハ聖經ノ記スルトコロカ  
ナリニートスト名クアブラハムノ時ニ當テ盛  
ニ商業ヲ行ヘリタイル及ビシドンノ如キハ共

ニ首要ノ府城ニシテ年代最モ古ク當時天下無  
雙ノ互市場ナリ

(三) 肥尼西亞ノ人民ハ夙ニ玻璃ヲ製シ紫粉ヲ  
造リ貨幣ヲ鑄ルノ發明アルヲ以テ名アリ又文  
字ヲ發明ス其功ナホ埃及人ノ象形文ニ於ケル  
ガ如シ而シテ其始メテ文字ヲ希臘ニ傳ヘタル  
ハカドミウス其人ノ功ナリトス

(四) 肥尼西亞ノ人民シプリウスローデス希臘  
シシリールサルヂニヤ及ビ西班牙ニ移住スル者  
多シカルセルヂハタイルノ王ピグマリオンノ

兄弟ナル勇婦ティットノ兇猛行險ノ徒ヲ將テ創  
建スル所ナリ而シテタイルノ國ヲ受ケ城ヲ開  
クテ著明記ス可キモノ前後二回アリ一ハ子ホ  
カドニールセルノ攻ムル所ト為リ一ハアレキサ  
ンドル大帝ノ掠ムル所ト為ル是レナリ

### 亞西里亞及ビ巴比倫史

(一) 亞西里亞ハ四大古國ノ首位ニ在リ其國名  
シエームノ子アツシユルニ出ツアツシユルハ  
其首府ニニユーブラ創建シタル人ナリ巴比倫  
ハハムノ孫ニムロツトノ創立スル所ニ係ル史

家往々ニムロツトヲ以テ俗史ニ載スル所ノベ  
リユースニ同シト為ス蓋シ此二府ノ創立稍其  
時ヲ同フシテバベル離散ノ事ニ後ル、久シ  
カラズトセズ然レ氏爾後數世ノ間事跡概子曖  
昧ニ屬シ幾ント信據ス可カラズ上代ノ史家録  
スル所ノモノ猶ホ多ク存スト雖氏彼此互ニ撞  
着シ前後相矛盾シテ孰レカ其信ナルヲ知ラズ  
(二) 亞西里亞及ビ巴比倫ハ元ト其國ヲ異ニシ  
各分立對峙セリニユース巴比倫ヲ征服シテ  
之ヲ亞西里亞ニ附屬スルニ至テ合シテ一ト成

ル是レ世人ノ普ク想定スル所ナリ然リト雖氏  
學士ギルリースノ説ニ從ヘバ當時其國王政一  
統之ヲ分テ三大紀ト為ス第一紀ハニムロツト  
ニ始マル巴比倫之カ首府タリ第二紀ハニウ  
スヨリ起年ス其京城ヲニユイブトス第三紀  
ハサルダナパリユース殂スルノ後ヨリ起算ス  
此時ニ當テ巴比倫再ビ首府ニ復ス  
(三) ニウースハ亞西里亞古代ノ英主ニシテシ  
ミラミスハ巴比倫上世ノ女丈夫ナリ而シテ其  
記事概子怪妄信據ス可カラズ當時ノ歴史ヲ修



メ年表ヲ編ム者ニシテ其記スルトコロ十人必  
ス十異アリニウス及ビシミラミスノ威ヲ振  
ヒ榮ヲ極ムルノ年代ノ如キ幾ンド一千余年ノ  
差異アルヲ致セリ

(四) ニニウスハ偉功ヲ奏シ權勢ヲ極メニニユ  
ーゾヲ修拓シ南征北伐地ヲ略シ境ヲ擴メ向フ  
所トシテ克クザルナシ後子シミラミスヲ娶テ  
后ト為スシミラミスマタニニウスヲ繼テ王タ  
リ人ト為リ明敏ニシテ容色古今ニ比ナク志望  
遠大ニシテ政策武略共ニ一世ヲ壓セリ巴比倫

ノ城市ヲ弘擴シテ天下第一ノ盛都ト爲ス其ノ  
位ニ在ルヤ威四境ニ振ヒ榮華比ナシ其子ニニ  
アス位ヲ繼グ

(五) ニニアス位ニ即テヨリサルダナパリエ  
ス竟ニ其國ヲ亡スニ至ルマテ星霜ヲ經ルモノ  
數百年ナリ而シテ其間亞巴兩國ノ事跡絶ヘテ  
正史ノ之ヲ傳フレナシ

(六) サルダナパリエノ名ハ一種罵詈輕慢  
ノ意ヲ含ミタル賤稱ナリ蓋シサルダナパリエ  
ースハ常ニ女装ヲ做シ婦人ノ業ヲ學ブヲ事ト

シ日夜后妃ト戯ムレ酒色ニ耽リ其醜體見ルニ  
堪ヘズ是ニ於テメチヤノ主宰アルバセス及ビ  
巴比倫ノ祭師ヘレシスナルモノ竟ニ之ヲ憤リ  
黨ヲ結テ反スサルダナバリユース一戦ニシテ  
敗ラル其俘囚トナルノ辱ヲ受ケンヲ恐レ寶  
貨ヲ收集シテ之ヲ宮殿ニ積ミ火ヲ縱テ后妃ト  
共ニ燼中ニ投シテ死ス

(七) 是ヨリ後チ三人ノ盟主天下ヲ三分シテ各  
ソノ一ヲ有ツアルバセスハメヂヤニ王タリベ  
レシスハ巴比倫ヲ治メピユルハ亞西里亞ノ王

位ヲ占ムピユルハ一ニフヒールト名ク

(八) ビユルノ後ヲ繼クモノ第一ヲチグラスビ  
レツセルトスイスレエール族ノ王國ジヨルダ  
ン河東ノ地ヲ占有ス第二ヲシヤラマニール  
トスイスセール族ノ王國ヲ亡ボシ其民ヲ俘奴  
ト爲ス第三ヲセンナチリツプトスヘザキアノ  
時ゼルセルムニ至リ環テ之ヲ攻メ遂ニ克タズ  
一夜ニシテ其兵ヲ亡フ十八万五千人神變ニ出  
ルカ如シ第四ヲエサルハツドントス猶太ト戰  
テ之ニ勝チ其王マナツセラ擄獲シテ巴比倫ニ

護送ス

(九) エサルハツドンノ殂スルヤ子ボボラツセル  
ル巴比倫ヲ治ム子ボボラツセルハ一ニ子ブカ  
ドニールゼルト名クメチヤノ王シヤツキサール  
ス、應援ヲ藉リニニユーブヲ攻メテ之ヲ拔キ  
遂ニ亞西里亞ノ王統ヲ絶チ巴比倫ヲ以テ首府  
ト為ス

(十) 子ブカドニール第二世ソノ位ヲ繼ギゼ  
ルセルムヲ略シ猶太ノ人民ヲ擄獲シテ之ヲ巴  
比倫ニ致ス世ヲ治ムル數年ノ久シキニ且リ偉

業見ル可キモノ多シ其事跡ノ詳ナルハ載セテ  
舊約全書中ダニールノ篇ニ在リ

(十一) 子ブカドニール殂シテ未タ幾ナラズベ  
ルシヤールゾル位ヲ繼グ此時ニ當テ波斯ノ將帥  
シリユス兵ヲ率テ來リ攻ム之ヲ圍ム二年遂ニ  
ヨウハレツトノ河道ヲ移シテ一滴水ナキニ至  
ラシメ進テ巴比倫ヲ拔ク時ニ府民警ヲ怠リ威  
宴ヲ張ル狼狽出ス所ヲ知ラスバルシヤール  
之ニ死シ巴比倫ノ國脈是ニ於テ斷絶ス  
(十二) 波斯ノ巴比倫ヲ征服シテヨリ以來時運漸

古史 卷之十一  
ク衰類ニ向ヒ數百年ヲ出テスシテ其隆榮壯大ノ跡蕩然地ヲ拂ヒ口碑ニ依ルモ猶且ツ其ノ何ノ處ニ存立セシヲ明徴ナラシムル能ハサルニ至レリ然レ氏近世ニ及テ歐羅巴人ノ其地ヲ跋渉スル者遂ニ其遺跡ヲ檢出ス是ヨリ先キ此地早ニ荒烟蔓草ノ鎖ス所トナリ殘瓦舊礎紛然散布シ獨リ猛獸毒蛇ノ窟宅ト為レリ聖經ノ預言亦タ空シカラサルヲ知ル

(十三) ニニユーグハ曾テノヂヤ人ノ之ヲ燬盡シテヨリ以來永ク舊容ヲ復スルヲナシ星移リ物

換リ殘瓦舊礎全ク地中ニ埋没シ二三巨陵ノ草萊ニ委シテ存スルモノ僅ニ其跡ヲ標示スルノミ一千八百四十五年英國人ラヤールド其地ヲ經過シ多ク巨宇壯殿ノ遺跡ヲ開發セリ是ヨリ先キ其ノ地中ニ埋没ヤシテ蓋シ二千五百年ニ幾シト云フ又彫刻題字ノ珍奇ニシテ趣味アルモノ數種ヲ發見セリ吾人之ニ因テ當時ノ禮儀風俗ヲ明ニシ其沿革事跡ヲ詳ニスルヲ得タリ

波斯史

(一) 波斯ハ四大古國ノ第二ニ位ス而シテシリ

ウス大王治世以前ノ事ハ悉ク暗昧ニ屬シ其ノ  
偶之ヲ記スルモノ奇怪信ス可カラサルモノ多  
シ元ト其國ヲエラムト名ケ其民ヲエラミツト  
スト云フ上代ノ古ニ在テハ境域最モ狹シ降テ  
シリウスノ世ヲ治ムルニ及テ其勢四隣ヲ壓シ  
版圖最モ廣ク屹然トシテ天下ニ冠絶セリ波斯  
メデアパルシア亞細里亞巴比倫尼亞及ビ小亞  
細亞皆其所轄タリ後マタカンビセス埃及ヲ略  
取シテ之ニ加フ

(二) 波斯ノ史記ハシリウスノ治世ヨリアレキ

サンドル大帝ノ是國ヲ滅スルニ至ルマデ其材  
料多クハ希國史家ノ遺書ニ出ヅ而シテ均ク是  
レ同時代ノ記事ニシテ近世波斯史家ノ手ニ成  
ルモノ往々小説ニ類シ且ツ年月ヲ録セズ國王  
ノ稱号ノ如キ全ク希臘史家ノ記スル所ト相異  
ルモノ亦少シトセズ其他重要ノ事件ニシテ彼  
此相同シカラズ殊ニ希臘史家ノ其事ヲ記スル  
ヤ自國ノ體面ニ關スルモノハ溢美過稱至ラサ  
ル所ナク為ニ吾人ヲシテ信ヲ措ク能ハサラシ  
ム然レモ今日ニ在テ以テ信憑ス可キモノハ之

ヲ去テ他ニ求ムベキナシ

(三) シリウスハ勇悍ニシテ兵事ニ長シ英明ニシテ政略ニ富メリ遠近ヲ征服シテ其境域エアセアン海ヨリエヨハレット河ニ及ビ其叔父マセドンノ王シアキセールス弟二世ト合從連衡シテバビロン城ヲ拔キ尋テ亞細里亞國ヲ略取スシアキセールス幾モナクシテ殂シ後千七年ノ間シリウス獨リ此聯邦ニ君臨ス彼ノ有名ナル猶太國民ノ歸郷ヲ許シ及ビゼルセルム府ノ再建ヲ企ルノ詔書ヲ發セシハ實ニ其即位ノ第

一年ニ在リ

(四) シリウスノ言行ハ史家ヘロドチエスエキセノホン及ビシテシアスノ記スル所各一ナラズ而シテロルリン其他近世ノ史家多クハエキセノホンノ説ニ從フト雖氏エキセノホンノ記事ハ其目的事跡ノ真偽ヲ明ニスルニアラズシテ單ニ明主ノ典型ト良政ノ模範ヲ天下後世ニ示スニ在リト云フ

(五) シリウスノ子カンビセス其位ヲ繼キ政刑最モ苛虐ヲ極ム而シテ其事業ノ赫然見ル可キ

モノハ埃及ノ征服ナリカンビセスノ殂スルヤ  
スメルデイス其位ヲ僭奪ス僭位僅ニ七月間ニシ  
テ殺サルダリウス撰バレテ王位ニ登ル嘗テ兵  
ヲ率テ希臘ヲ攻メマラゾンニ於テ大ニ敗ル竟  
ニ志ヲ果サズ波斯ノ史記是ヨリ以降滅國ノ時  
ニ至ルマテ希臘ノ史記ト係累相因ルモノ亦多  
カラズトセズ

(六) ダリウスノ子エキセルキス第一世其位ヲ  
繼ギ大舉シテ再ビ希臘ヲ伐ツ連戰克タズ兵ヲ  
亡フ算ナシ位ヲ其子アルタキセルキス第一世

ニ譲リ世ヲ治メシム在位年久ク昇平事ナシ

(七) アルタキセルキス第二世及ビダリウス、コ  
ドマニウスノ二王ハアルタキセルキス第一世  
ニ亞テ英主ノ名アリアルタキセルキス第二世  
ノ位ニ在ルヤエキセノホン希臘ノ兵一万余ヲ將  
テ來リ攻ム克タズ其事永ク史上ニ著ルダリウ  
ス、コドマニウスハ波斯古代ノ末王ニシテアレ  
キサンドルノ敗ル所ト為リ竟ニ其殂スルニ及  
デ波斯古代ノ帝國之ト共ニ絶滅ス

古代波斯國列王略譜

